

ほろにが

令和元年 8月 15日
全国卸売酒販組合中央会

「今こそ量より質にこだわって」

中国支部長 濱岡 弘道

現在の日本は、少子高齢化が進み、人口減少社会が到来しています。

これに応じて酒の消費量も減少しており、国内では今後も量的な需要回復は望めない状況にあります。

メーカーによっては特別な販売促進策を打ち出して量を確保しようとする動きもあるかと思いますが、市場の混乱を招くだけであり、やめていただきたいと思っています。

酒類業界は、今こそ量より質にこだわって、量が減っても売り上げや利益は伸びたという状態にもっていかなければと思っています。

高齢者の方に話を聞くと、「酒の量は若い頃の半分以下になったが、今は若い頃に飲めなかったおいしいお酒（純米吟醸酒やビールなど）が飲めて幸せを感じている」と言っている人もたくさんいます。

ある会社の祝い事の打ち上げで、課長が新入社員にビールを買ってくるように頼んだそうです。すると新入社員は第3のビールを買ってきました。課長は「何故ビールを買ってこないのか」と聞くと、新入社員は「課長は家では第3のビールを飲んでいると言っておられたので」と答えたそうです。課長は「こういうときこそ本当のビールを飲みたかったのだ」と言われたそうです。

消費者は家計のこともあります、本来のおいしいビールを飲みたいという思いもあります。

これまで力を入れて開発してきた発泡酒や第三のビールは、ビールメーカーにとっても大切だと思いますが、今こそビールの多様化や品質の向上に一層力をいれていただきたいと思っています。

ビール本来のうまさを消費者に伝えて、造るほうも売るほうも量より質に力を入れていければ、酒類業界全体の向上に繋がっていくと思います。

良いビールや清酒などを広めることで、お酒をあまり飲まない若い人たちもお酒の良さ・うまさを知ってお酒好きになってくれると良いですね。

世界に目を向けると、清酒をはじめ日本のお酒は、その品質や味で認められてきていると思います。

政府の統計によると酒類の輸出は年々増加しているとのことですが、まだまだ伸びる余地は非常に大きく、メーカーの皆様には世界に通用する清酒、ビール、蒸留酒、ウイスキー等を造っていただきながら、政府や酒類業界が一致協力して輸出を伸ばしていければと思っています。

これにより、国内では不必要な競争をなくし、公正な取引を推進して酒類業界全体が明るく健全に発展することを祈っています。

最後に、母は、今年、103歳になりましたが、今も元気で「酒は飲み方によっては毒にも薬にもなるものだから、心して商売しなさい。」というのが口癖です。